

あゆみ

Vol.49

平成26年3月19日



表紙写真 「カワセミ・名古屋市内」(牧の池どうぶつ病院 鈴木克弥先生)

カワセミ(翡翠、川蟬)は、ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属に分類される鳥の一種。水辺に生息する小鳥で、鮮やかな水色の体色と長いくちばしが特徴で、ヒスイ、溪流の宝石などと呼ばれることもあるが、最近は都市部の公園でも繁殖しています。当院の裏の池(牧の池)にも棲んでいて姿は見かけるがなかなか近くで撮らせてくれず。現地で知り合った先輩方に教えて貰って機材を揃え、迷彩テントに潜んで待っていたら嬉しい瞬間が撮れ、この1枚が野鳥撮影にのめり込むきっかけとなりました。

表紙題字 故 芝 田 松太郎 氏
(名古屋市獣医師会 元会長)

あゆみ vol.49

巻頭言

マイクロチップのさらなる普及のために

(公社)名古屋市獣医師会会長 荻 曾 敏 之 …… 1

狂犬病予防集合注射	集合注射対策委員会……………	3
平成25年度学校飼育動物委員会活動実績	学校飼育動物委員会……………	4
夜間動物緊急診療所	夜間診療所委員会……………	9
学術委員活動報告	学術委員会……………	11
平成25年度 定期購読雑誌・書籍	学術委員会……………	11
学術セミナー	学術委員会……………	12
平成24年度 人獣共通感染症調査事業報告	学術委員会……………	13
平成24年度 傷病野生鳥獣保護活動集計	学術委員会……………	23
平成24年度 テレフォンドクター集計結果報告書	動物愛護委員会……………	24
長寿功労動物表彰式	動物愛護委員会……………	29
東山動物園の長寿動物へのお祝い寄贈	動物愛護委員会……………	30
絵本寄贈	動物愛護委員会……………	31
動物フェスティバル2013なごや	動物フェスティバル実行委員会……………	32
平成24年度 公益社団法人名古屋市獣医師会 動物看護師認定試験	動物看護師認定委員会……………	33
会館委員活動報告	会館運営委員会……………	33
社会福祉法人 中部盲導犬協会への寄付 ……		33
東北関東大震災動物救護活動等支援義援金 ……		33
大懇親会	福祉厚生委員会……………	34
会員寄稿		
クロサイ	三 浦 隆……………	35
恥ずかしいと思う気持ち	小 島 健 治……………	38
正しいことを言うときは少しひかえめにするほうがいい	桑 原 康 人……………	39
野鳥撮影、始めてみますか？	鈴 木 克 弥……………	40
同好会報告		
・テニス同好会 ……		42
・ソフトボール同好会 ……		42
名古屋市獣医師会行事 ……		43
退会者報告 ……		43
物故者追悼 ……		43
編集後記 ……		52

マイクロチップのさらなる普及のために

公益社団法人 名古屋市獣医師会
会長 荻曾敏之

私共名古屋市獣医師会は、平成22年度より動物愛護事業の発展を目的に、動物ID普及推進事業として協力会員にマイクロチップ読取機(リーダー)及びチップ購入の補助から実施しました。さらに、昨年度(24年度)より名古屋市と協力して犬猫飼主へのマイクロチップ装着補助事業に切りかえ、環境省ポスター、市の広報、本会ホームページ及び機関紙のAICニュースを通してマイクロチップの普及推進に努めてきました。しかしながら、昨年度のマイクロチップ補助券利用者は、660頭の予算に対して約半数に止まり、今年度(25年度)も現状は大きな利用増加がみられない状況になっています。

本事業スタート時から、マイクロチップ装着の有意性は、ペットの盗難、不慮の事故や災害時の迷子犬猫の個体識別(身元表示)、そして装着の安全性、簡易さを中心に啓蒙啓発してきましたが、来院された飼主さんに何度も同じ説明をしていると、これらはほとんどすべてが万が一のときのメリットで、日頃より飼犬、飼猫を逸走させないこと、事故災害が起こらないことの方が大事なのではとも考えられ、チップ装着はまさかのための保険に入るかどうかのような感覚で飼主さんに伝わっている気がします。

こういった現状を踏まえて、今後マイクロチップのさらなる普及には、獣医師サイドから新たな装着メリットを飼主さんに提供することが必要ではないかと考えます。つまり万が一のメリットではなく、飼主さんがマイクロチップ装着直後から即実感できるメリットをより多く作り出すことが必要な時期になってきているのではと思います。

例として

- 診察券の持参を不要に
チップを読み取ることでカルテの顧客管理データと連動させる
- ワクチン証明書、診断書等にもチップ番号記載欄を追加
獣医師、スタッフも利用に馴染むこと
証明書等の信頼向上
- 動物健康保険、共済等の加入条件とすること
装着済動物は保険証の持参不要にできること
個体識別徹底によって不正請求抑止
- 行政の飼犬登録番号とチップ番号の一元化
集合注射会場での登録済確認に利用

これらの例示は、単に私的に考えたものですが、今までの社会公益的なメリット中心とする説明では、犬猫の飼主さんの気持ちを動かす強烈なインパクトとは言えず、今後「動物の愛護及び管理に関する法律」の改正で飼犬飼猫のマイクロチップの装着が義務化された場合、現状の狂犬病予防法のようにその実効性に疑問が残るものの、マイクロチップの普及に大きな効果が期待できると思います。しかしながら本当の意味で、この事業のさらなる発展、継続していくためには、より飼主さんたちに歓迎される装着メリットを我々獣医師をはじめとする動物医療に携わる者から、利用者にもっと身近に直接的に感受できる中身を提供できないようでは、難しくなってくるのではと考えています。

狂犬病予防集合注射

集合注射対策委員会

■平成25年度狂犬病予防集合注射実施結果

1. 期間

平成25年4月5日～4月26日

延日数 114日(217会場)

出勤獣医師延人数 248人

2. 実施頭数(会員報告をもとに事務局集計)

区	H25注射頭数	H24注射頭数	前年度比頭数
千種	1,494	1,416	78
東	589	630	-41
北	1,597	1,690	-93
西	1,540	1,564	-24
中村	1,505	1,559	-54
中	718	703	15
昭和	866	872	-6
瑞穂	967	1,020	-53
熱田	618	620	-2
中川	2,514	2,513	1
港	2,033	2,150	-117
南	2,024	2,108	-84
守山	1,471	1,570	-99
緑	2,446	2,523	-77
名東	1,266	1,231	35
天白	1,301	1,400	-99
計	22,949	23,569	-620



平成25年度学校飼育動物委員会活動実績

学校飼育動物委員会

公益認定団体となり学校飼育動物委員会の活動が軌道に乗って参りました。これは会員の方々の理解と協力により実現できているものと感謝しております。本年度は教育委員会、名古屋市議会の視察もあり、広く社会に動物介在活動の意義を知っていただくための第一歩が踏めたことを喜んでおります。本年度の会員による活動報告を記します。どうぞ、今後におきましても、会員の皆様の知識と経験をお借りしてご協力お願い申し上げます。

1. 動物ふれあい教室 8回(5校)

日付	学校	学年	児童数	使用動物	参加獣医師・AHT
2013.6.7	御園小学校	1年	7名	ウサギ	3名
2013.7.5	荒子小学校	1年	58名	ウサギ	5名
2013.7.9	荒子小学校	1年	59名	ウサギ	6名
2013.7.10	荒子小学校	1年	59名	ウサギ	5名
2013.9.26	宮前小学校	1年	71名	ウサギ	5名
2013.10.22	白水小学校	1年	47名	ウサギ	5名
2013.10.29	御園小学校	1年	6名	ウサギ	2名
2013.11.15	山吹小学校	1年	83名	ウサギ	7名

・荒子小学校1年生「動物ふれあい教室」実施

7/5、7/9、7/10の3日間、荒子小学校(中川区)において、1年生の生活科授業として「動物ふれあい教室」を実施しました。

子どもたちは獣医師からうさぎの説明を聞いて、どうしたらうさぎと仲良くなれるか、わくわくしてうさぎに触れていました。支援の子どもも参加しました。

子どもたちは好奇心のかたまり。怖いけど、触りたい。時には奇声を上げそうになるけど、驚くうさぎに気を遣って、そっと近づきます。うさぎが何をしたら嫌なのか、何をしてあげたら喜ぶか、考えて学んでいきます。そして、新たな発見をして、「なぜ?」「どうしてなのだろう?」「そうか、知らなかった。」と知識を得ていきます。

この取組みは動物の力を借りて「命の教育」を行うことを目的とし、体験を通じて長く子どもの記憶に留めることを狙っています。

中日には、名古屋市市議会の藤田和秀議長、下田教育長、市教育委員会指導室の立岡主事が視察に来られ、学校における動物介在教育の一部をご覧になり、子どもたちの笑顔をしっかり見ていただきました。

日本の未来を背負う子どもたちが、豊かな心を育てるお手伝いができるかと信じて活動を続けています。



・宮前小学校1年生「動物ふれあい教室」実施

9月26日、北区・宮前小学校において1年生71名の生活科授業・動物ふれあい教室を行いました。当日1年生は、直前のお掃除もそわそわ落ち着かないくらい待ち遠しかったとか。

八熊小学校、小碓小学校からお借りしたウサギ5頭と共に、楽しい時間を持ちました。

ほとんどのこどもがうさぎに触ることははじめて。ドキドキしながら抱っこして、暖かい、ふわふわした感触を体験しました。見て、聞いて、触って、臭って、考えて、と新たな挑戦です。こどもたちは、教育用聴診器を使ってウサギの心音も聞き、その速さに驚いていました。みんな、うさぎと仲良くなれたかな？



・白水小学校1年生「動物ふれあい教室」実施

2013年10月22日、南区・白水小学校において、1年生47名が生活科授業として、動物ふれあい教室を楽しんでくれました。白水小学校には4頭のうさぎがきれいに飼われています。そのうさぎさんに登場してもらい、子どもたちは大喜びでした。どの1年生もみんな活発で、「思いやりをもってうさぎに触ってね」という注意をよくきいてくれ、上手に触れ合ってくれました。担任の先生方、校長先生、教頭先生、みなさんすてきな方ばかりで、良い小学校でした。4年生になったら、飼育委員になるよ、と言ってくれた男の子もいました。みんな、生きていることの暖かさが少しわかってくれたかな。



・御園小学校1年生「動物ふれあい教室」実施

10月29日火曜日、中区・御園小学校において1年生の動物ふれあい教室2回目「季節の変化を感じよう」を行いました。

1学期に1回目のうさぎとのふれあいを行い、1年生はうさぎってどんな生き物？ということ学びました。2回目は、何を学ぼうかと担任の先生は考えられ、「季節の変化」を感じる授業を計画しました。

はじめに座学でうさぎの毛変わり(換毛)と冬に食べるもの、を教わり、うさぎにふれあって確かめました。みんなわかったかな？



・山吹小学校1年生「動物ふれあい教室」実施

11月15日金曜日、東区・山吹小学校において1年生83人が生活科授業として、動物ふれあい教室を楽しんでくれました。

子供たちはうさぎがびっくりしないように、小さい声で返事をしっかりしてくれ、早くうさぎさんに触りたいのを我慢して、しっかり自分の番まで待ってくれました。

また、うさぎのしっぽの形や、歯の形をみて驚いていました。

最後まで名残惜しそうにしてくれて、しっかりうさぎの温もりを感じてくれたみたいでした。



2. 教員研修会

日付	組織	場所	教員数	使用動物	参加獣医師
2013.8.4	市内教員	愛教大	60名	ウサギ	4名
2013.1.17	生活科研究会	桃山小学校	30名	ウサギ	4名

3. トワイライトスクール動物ふれあい教室

日付	学校	場所	児童数	使用動物	参加獣医師
2013.3.22	荒子トワイライト	荒子小学校	20名	ネコ	3名
2013.5.30	荒子トワイライト	荒子小学校	20名	ウサギ	2名
2013.9.20	荒子トワイライト	荒子小学校	20名	イヌ	2名
2013.11.14	荒子トワイライト	荒子小学校	20名	イヌ	3名

4. 動物導入

日付	学校	導入動物	頭数	指導獣医師
2013.4.30	城北小学校	ウサギ	3頭	1名
2013.5.7	上社小学校	ウサギ	2頭	1名
2013.6.14	八社小学校	ウサギ	1頭	1名

5. 飼育指導

日付	学校	飼育動物	指導獣医師
2013年前後期	八熊小学校	ウサギ	1名
	上社小学校	ウサギ	1名
	名城小学校	ウサギ	1名
	稲生小学校	ウサギ	1名
	明倫小学校	ウサギ	1名
	広路小学校	ウサギ	1名
	南稜小学校	ウサギ	1名
	庄内小学校	ウサギ、モルモット	1名
	山吹小学校	ウサギ	1名
	小碓小学校	ウサギ	1名
	白水小学校	ウサギ	1名
	東海小学校	ウサギ	1名

6. 出張講座

2014.1.19 名南ロータリークラブ

「動物介在教育と名古屋市獣医師会の取り組み」

7. 負傷動物治療(平成24年度)

日付	学校	診療動物	診療獣医師
2012.4.4	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.4.24	清水小学校	ウサギ	1名
2012.5.7	善光寺別院幼稚園	ウサギ	1名
2012.5.29	荒子幼稚園	インコ	1名
2012.6.13	善光寺別院幼稚園	ウサギ	1名
2012.6.29	善光寺別院幼稚園	ウサギ	1名
2012.7.4	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.7.10	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.7.11	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.7.12	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.7.13	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.7.20	小碓小学校	ウサギ	1名
2012.7.27	善光寺別院幼稚園	ウサギ	1名
2012.8.27	第一幼稚園	ウサギ	1名
2012.8.28	菜の花保育園	ウサギ	1名
2012.8.28	南陽小学校	ウサギ	1名
2012.9.11	はとり幼稚園	ウサギ	1名
2012.10.10	城北小学校	ウサギ	1名
2012.10.31	上社小学校	ウサギ	1名
2012.11.7	上社小学校	ウサギ	1名
2012.11.16	城北小学校	ウサギ	1名
2012.11.19	名城小学校	ウサギ	1名
2012.12.21	鳴海ヶ丘幼稚園	ウサギ	1名
2013.2.26	菊住小学校	ウサギ	1名

8. 名古屋市立小学校における飼育に関する調査実施

名古屋市教育委員会の協力のもと、2013年名古屋市立小学校250校における学校飼育に関するアンケート調査を実施しました。飼育施設を持ちながら飼育をしていない学校が30%もあり、飼育離れが指摘されました。獣医師会の学校飼育動物委員会では理解のある小学校に対して地道に支援をしていきたいと思っています。

夜間動物緊急診療所

夜間診療所委員会

名古屋市獣医師会夜間動物緊急診療所は開設から9年が経ちました。常に複数の獣医師と看護師が常駐し、質の高い緊急医療を実施できるよう常勤獣医師3名、非常勤獣医師5名、常勤看護師5名のスタッフが交代で21:00～2:00(年中無休)の診察時間で勤務しています。最近ではデジタルレントゲンや電子カルテの導入など設備の充実を図りスムーズな診療に心がけ、診療水準も会員病院の協力により緊急の輸血にも対応可能となるなど常に進歩するよう努力を続けています。診療時間の延長など様々な課題が山積しておりますが、地域医療の一翼を担うべくこれからも頑張って夜間診療所を発展させてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人名古屋市獣医師会夜間動物緊急診療所における 2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)の来院状況集計

総来院件数 2489

表1. 動物種の内訳 (頭)

犬	小型犬	1228
	中型犬	372
	大型犬	91
	合計	1691
猫		623
鳥類		22
エキゾチック	ウサギ	96
	ハムスター	25
	フェレット	18
	その他	14
	合計	153

表2. 年齢層の内訳 (頭)

犬	1歳未満	125
	1～4歳	307
	4～8歳	420
	8歳以上	737
	年齢不詳	12
	合計	1691
猫	1歳未満	135
	1～4歳	146
	4～8歳	93
	8歳以上	220
	年齢不詳	29
	合計	623

表3. 疾病分類 (頭)

消化器系	694
神経系	281
筋骨格系	274
不定愁訴	244
泌尿生殖器系	216
皮膚科	203
呼吸器系	170
緊急疾患	151
眼科	88
中毒	47
代謝疾患	29
免疫系	27
循環器系	25
内分泌系	13
感染症	10
血液疾患	8
腫瘍	5
その他	4

表4. 曜日毎来院数の内訳 (頭)

月	326
火	349
水	341
木	321
金	329
土	407
日	416

表5. 曜日毎平均来院数の内訳 (頭)

月	6.3
火	6.7
水	6.6
木	6.2
金	6.3
土	7.8
日	8
平均	6.8

表6. 月毎の来院件数 (頭)

2012.4	173
2012.5	225
2012.6	214
2012.7	247
2012.8	245
2012.9	201
2012.10	204
2012.11	188
2012.12	199
2013.1	209
2013.2	169
2013.3	215

表7. 来院時間の内訳 (頭)

20～21時	105
21～22時	626
22～23時	575
23～0時	483
0～1時	394
1～2時	254
2時以降	52

表8. 来院地域の内訳 (頭)

名古屋市内	1706
愛知県	720
愛知県外	63

表9. 名古屋市内の来院内訳 (頭)

昭和区	59
天白区	95
千種区	60
名東区	61
瑞穂区	106
守山区	38
緑区	130
東区	70
北区	68
熱田区	117
西区	110
南区	132
港区	129
中村区	143
中区	162
中川区	226

表10. 来院患者の内訳 (頭)

A	977
B	538
C	191
D	783

- A：名古屋市在住で名古屋市獣医師会員病院が主治医の患者
 B：名古屋市在住で非会員病院が主治医の患者
 C：名古屋市在住で特に主治医のいない患者
 D：名古屋市外在住の患者

学術委員活動報告

学術委員会

当会の学術事業は公益目的事業であり、一般の方々の利益の増進に寄与できるよう取り組んでいます。主な事業として①人獣共通感染症調査、②傷病野生鳥獣保護事業、③獣医師および動物看護師の卒後教育講習会、などが挙げられます。

人獣共通感染症調査につきましては、名古屋市の委託事業として人獣共通感染症の疫学調査を長年にわたって実施しています。人獣共通感染症は動物だけでなく人にも共通して感染する可能性のある病気のことで、人への影響が問題視されるために注目されていますが、その一方で正しく理解されずに誤解を生じています。平成25年度は「名古屋市内の飼育猫のトキソプラズマ感染症調査－血清抗体価検査と糞便PCR検査を用いた名古屋市内の飼育猫の感染状況の推察－」といったテーマで調査しました。それに合わせ「ズーノーシスとしてのトキソプラズマに関する最近の話題(佐伯英治先生)」の講習を企画し、市民の皆様にも正しく啓蒙できるよう最新情報の収集もしています。なお、平成24年度「名古屋市中で飼育されている猫のPasteurella multocidaの保有状況調査」(本誌pp.13-22に掲載)など過去の調査結果は、<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000025355.html>(名古屋市のホームページ)に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

また、傷病野生鳥獣保護事業も名古屋市から委託されている事業の一つです。名古屋市獣医師会病院は飼育動物だけでなく、野生動物の保護や治療を獣医師の職務と考え、会として積極的に取り組んでいます(平成24年度の実績は本誌pp.23に掲載)。

本年度も多く獣医師および動物看護師の卒後教育講習会を開催致しました。具体的な内容は、緊急医療の重要性や市民からの要望が高まっていることから、その役割が大きい名古屋夜間動物緊急診療所と共同で「輸血」をテーマに複数の講師を招きセミナーを開催いたしました。こういった取り組みや獣医療の質の底上げには、獣医師会だけではなく、この地域の二次診療施設である岐阜大学やJARMeC名古屋との学術提携が不可欠だと考えています。実際に岐阜大学に対しては、「岐阜大学動物病院獣医臨床セミナー」を名古屋獣医師会館で年2回開催していただくことで、二次診療施設の現状を知ることができ、さらなる連携を強めています。また現状において、勤務獣医師や動物看護師の卒後教育の場が少ないことから、今年度から新たにJARMeC名古屋との共催で「名獣JARMeCセミナー」を開催いたしました。平成26年1月より、1年間で「麻酔学」を計6回実施する予定ですが、第1回は名古屋市だけで91名もの参加がありました。今後も、名古屋市獣医師会は獣医師や動物看護師の卒後教育に力を入れていきたいと考えています。

これら3つの大きな事業以外にも新たな取り組みを行っています。例えば、海外学術誌の購入の強化が挙げられます。情報が氾濫する現代において最新の海外学術誌の論文を把握することは、獣医師の知識や技量を深めるための研鑽を積む重要なプロセスとなります。このように、今後も名古屋市獣医師会は公益社団法人として学術的な信頼が高まるよう努めていきたいと思っております。

平成25年度 定期購読雑誌・書籍

学術委員会

下記書籍が閲覧可能です。是非、ご利用下さい。

- Journal of American Veterinary Medical Association (米国獣医師会雑誌)
- Journal of Small animal practice Print+電子ジャーナル(小動物臨床雑誌)1997年以降ダウンロード可能
- Journal of Veterinary Internal Medicine Print+電子ジャーナル(獣医内科学雑誌)2009年以降ダウンロード可能
- CAP • Info Vets • SURGEON • SA Medicine • MVM • エキゾチック診療 • CLINIC NOTE • As(アズ)
- Journal of Veterinary Emergency and Critical Care+電子ジャーナル(獣医救命救急雑誌)
- Dr. Martins 獣医眼科学 基礎から診断・治療まで • カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編

学術セミナー

学術委員会

■ 岐阜大学動物病院 獣医臨床セミナー (名古屋市獣医師会 共催)

講師：柴田早苗 先生 (岐阜大学動物病院(麻酔科))

「教育講演－周術期の体温管理－」

講師：鬼頭克也 先生 (岐阜大学動物病院(血液内科))

「症例検討(1) 貧血診療のピットフォール－たかが貧血, されど貧血」

講師：藤田誠司 先生 (岐阜大学動物病院(腫瘍科))

「症例検討(2) 猫の骨軟骨腫症の一例」

日 時 平成25年4月21日(日) 14:00～17:00

場 所 名古屋市獣医師会館

当日出席 82名

■ 名古屋市獣医師会 学術セミナー

講師：佐伯英治 先生

(株式会社 サエキサイエンス リサーチ&コンサルタンツ)

「ズーノーシスとしてのトキソプラズマに関する最近の話題」

日 時 平成25年10月8日(火) 13:30～15:30

場 所 名古屋市獣医師会館

当日出席 47名



■ 名古屋市獣医師会 輸血セミナー

講師：小川博之先生 先生 (JARMcC)

「輸血製剤流通実現に向けた動き」

講師：中村遊香 先生 (株式会社共立製薬)

「輸血に必要な技術」

講師：山下傑夫 先生 (JARMcC)

「臨床現場での輸血の実際」

講師：湯木正史 先生 (名古屋市獣医師会)

「名古屋市獣医師会輸血システムのガイドライン」

日 時 平成25年10月10日(木) 21:30～23:45

場 所 名古屋市獣医師会館

当日出席 66名



■ 岐阜大学動物病院 獣医臨床セミナー (名古屋市獣医師会 共催)

講師：丸尾幸嗣 先生 (岐阜大学動物病院(腫瘍科・比較がんセンター))

「教育講演－がんを知り、がんを減らす犬がん登録を『岐阜県』からはじめよう－」

講師：矢野将基 先生 (岐阜大学動物病院(腫瘍科))

「症例検討(1) 原発性上皮小体機能亢進症の犬の4例」

講師：浅田慎也 先生 (岐阜大学動物病院(外科))

「症例検討(2) 猫の胸椎骨肉腫の2例」

日 時 平成25年10月27日(日) 14:00～17:00

場 所 名古屋市獣医師会館

当日出席 29名

名古屋市で飼育されているネコの

*Pasteurella multocida*の保有状況調査 (名古屋市からの委託事業)

はじめに

イヌやネコに咬まれ、咬傷から侵入した病原体による感染症のなかで最も患者数が多いと考えられているのが、パスツレラ症である。*P. multocida*をはじめとする*Pasteurella*属の菌は、約75%のイヌおよびほぼ100%のネコの口腔内、上気道、消化管に常在しており、ヒトへの咬・搔傷や口元をなめられるなどの接触により局所感染症、呼吸器感染症の他、敗血症、髄膜炎など全身感染症を引き起こす例も報告されている。

地方都市である名古屋市においても、イヌ・ネコの飼育の場が、屋外から室内へと身近になり、直接的接触が増加していると考えられ、本菌のイヌ・ネコにおける保有状況および飼育動物と飼育者との関係を把握することが求められている。

そこで今回は、特に保有率の高いネコについて、*P. multocida*の口腔内および爪の保菌状況、調査対象の環境調査を調査した。また、同じ*Pasteurella*属に分類され、ネコの口腔内に保菌されている*P. dagmatis*についても同様に調査を行った。

調査材料および調査方法

1. 調査施設

名古屋市内に施設をもつ名古屋市獣医師会員病院、16施設に採材とアンケート調査(調査対象の環境調査)を依頼した。

2. 調査期間

調査期間は、平成24年8月17日から9月21日とした。

3. 調査材料

各調査施設に来院した飼猫の口腔内、前肢爪、後肢爪拭い液、各80検体を使用した。シードスワブにて採取し、4℃で検査施設まで送付した。

4. 調査方法

検査は日本獣医生命科学大学獣医微生物学教室(片岡康氏)に依頼した。

*P. multocida*の細菌学的検査

1) *P. multocida*または*P. dagmatis*の分離培養

*P. multocida*または*P. dagmatis*は、各材料スワブが常在菌により汚染しているものと考え、*P. multocida*の選択培地を用いて、以下のようにして分離培養した。

1. 選択培地は、Knightらが報告しているModified Knight mediumを用いた。

Modified Knight medium

(heart infusion agar (BBL)
5% defibrinated horse blood
clindamycin 5.0mg/L
gentamicin 0.75mg/L
amphotericin B 5.0mg/L

2. 各材料スワブを選択培地に塗抹し、37℃、24時間、好気培養した。
3. 培養後、*Pasteurella*属菌と疑われる集落を各検体3～5個滅菌楊子にて釣菌し、5%めん羊脱線維血液加寒天培地に純培養(37℃、24時間、好気培養)した。
4. 純培養後、培養菌を掻き取り、試験に供試するまで10%スキムミルクに浮遊し-80℃で保存した。

2) *P.multocida*または*P.dagmatis*の分離培養

以下の生化学的性状を検査し、*P.multocida*または*P.dagmatis*と同定した。

	<i>P.multocida</i>	<i>P.dagmatis</i>	
①グラム染色	ともにグラム陰性小桿菌、両端染色性		
②カタラーゼ試験	ともに陽性		
③オキシダーゼ試験	ともに陽性		
④ウレアーゼテスト	陰性	陽性	
⑤インドール試験	ともに陽性		
⑥硝酸塩還元試験	ともに陽性		
⑦オルニチン脱炭酸試験	陽性	陰性	
⑧炭水化物分解能	マルトース	陰性	陽性
	マンニット	陽性	陰性
	ラフィノース	陰性	陽性

3) *P.multocida*および*P.dagmatis*検出用Polymerase chain reaction(PCR)

PCRは、最初に口腔内、前肢爪および後肢爪のスワブから直接培養により行った。その手法は以下の通りである。

1. 各スワブをHeart infusion broth(BD)3.0mLに接種した。
2. 37℃、18～24時間、好気培養し、培養後菌液1.0mLをE.tubeに入れ、8,000rpm×5分遠心後、上清を捨て沈渣200μl Tris-EDTA buffer(pH8.0)に浮遊した。
3. 100℃、15min加熱し、菌体DNAを抽出した。
4. 12,000rpm×5分間遠心し、上清をtempelate DNAとした。
5. PCR mixtureの作成

(tempelate DNA 10μl
Taq DNA polymerase(1U) 0.125μl
10×PCR buffer 2.5μl
dNTP mixture 2.0μl
25mM MgCl₂ 1.5μl
primer(F) 0.5μl
primer(R) 0.5μl
D.W. 7.875μl

検出用プライマーは、

*P.multocida*は、KMTJB-forward (5'-TGCCACTTGAAATGGGAAATG-3')、

KMTJB-reverse (5'-AATAACGTCCAATCAGTTGCG-3')を用い、

*P.dagmatis*は、Pdagmsod-forward (5'-TAACAACGCTAACGCAGCGT-3')、

Pdagmsod-reverse (5'-CACCTTGTAATGTTGTACCT-3')をそれぞれ用いた。

6. PCRスケジュールは以下の通りに行った。

95℃、5 min
94℃、30sec } 35cycles
57℃、30sec }
72℃、30sec }
72℃、7 min

7. PCR産物の検出は、アガロースゲル電気泳動を行い、*P.multocida*は168bp、*P.dagmatis*は184bpのバンドが検出された場合を陽性と判定した。

2. 調査対象の環境調査

1) 飼育動物

- ① 品 種 _____
- ② 性 別 オス メス
- ③ 年 齢 _____歳
- ④ 口腔疾患以外の既往歴 _____
- ⑤ ウイルス感染 FeLV FIV FIP 無 不明
- ⑥ 一ヶ月以内の抗生剤使用の有無 有 無 不明
- ⑦ 口腔検査での問題点
歯石沈着 口内炎 口臭 流涎 疼痛 その他 無
- ⑧ 歯石除去などの処置の有無 有 無
- ⑨ 爪切りなどの処置の有無 有 無

2) 飼育状況

- ① 飼育場所
完全室内飼育 室内、屋外を出入り 完全屋外飼育 屋外(野良猫)
- ② 食餌内容
ドライフード 缶詰 人の食事 その他
- ③ 食餌の場所
室内 室内、屋外 屋外 屋外(野良猫)
- ④ トイレの場所
室内 室内、屋外 屋外 屋外(野良猫)
- ⑤ 爪とぎの場所
室内 室内、屋外 屋外 屋外(野良猫)
- ⑥ 飼主による口腔衛生管理 ブラッシング 歯石予防薬 その他 無
- ⑦ 飼主による爪切りの実施 有 無
- ⑧ 他の猫の飼育状況
 - 飼育場所 完全室内飼育 ()頭
 - 室内、屋外を出入り ()頭
 - 完全屋外飼育 ()頭

- ⑨ 他の動物の飼育状況
- 動物種 ()
 - 飼育場所 完全室内飼育 ()頭
室内、屋外を出入り ()頭
完全屋外飼育 ()頭

3) 飼育者の住居

- ① 住居区 名古屋市 _____ 区
- ② 住居 (一戸建 マンション・アパート その他)

4) 飼育者と飼育動物との関係(これまで経験のあるものを回答)

- ① 飼育動物に咬まれる
有(その後の対応：何もしない 水洗い 消毒 病院の受診
その他)
無
- ② 飼育動物に引っかかる
有(その後の対応：何もしない 水洗い 消毒 病院の受診
その他)
無
- ③ 飼育動物と同じ箸やスプーンを使って食事をする、キスをする
有(その後の対応：何もしない 手洗い・うがい 消毒
その他)
無
- ④ 飼育動物と同じ寝具で眠る
有(その後の対応：何もしない 手洗い・うがい 消毒
その他)
無

結 果

1. *P.multocida*および*P.dagmatis*の分離培養

*P.multocida*は前肢爪80検体中2検体(2.5%)から、後肢爪は1検体(1.3%)、口腔内からは80検体中58検体(72.5%)から分離された。また、*P.dagmatis*は前肢爪および後肢爪からは分離されず、口腔内のみから80検体中20検体(25.0%)から分離された。(表1、別表1)

2. *P.multocida*および*P.dagmatis*検出用PCR

PCRによる結果では、*P.multocida*は前肢爪80検体中13検体(16.3%)から、後肢爪は16検体(20.0%)、口腔内からは80検体中71検体(88.8%)から特異的なPCR産物が検出された。一方、*P.dagmatis*は前肢爪から1検体(1.3%)、後肢爪から1検体(1.3%)、口腔内からは80検体中36検体(45.0%)から分離された。(表1、別表1)

表1 ネコの口腔内、前肢及び後肢爪における*P.multocida*および*P.dagmatis*の陽性率

検 体	<i>Pasteurella multocida</i>		<i>Pasteurella dagmatis</i>	
	培養検査	PCR	培養検査	PCR
前肢爪	2/80(2.5%)	13/80(16.3%)	0/80	1/80(1.3%)
後肢爪	1/80(1.3%)	16/80(20.0%)	0/80	1/80(1.3%)
口腔内	58/80(72.5%)	71/80(88.8%)	20/80(25.0%)	36/80(45.0%)

調査対象の環境調査結果は別表1および別表2に示した。また、調査対象の環境調査結果と口腔内および爪の*P.multocida*陽性率の関係を別表3および別表4に示した。

考 察

過去の名古屋市内の猫の*P.multocida*保菌実態調査においては、84.4%の陽性率が示されている。

今回の調査でも、*P.multocida*については、口腔内で培養検査72.5%、PCR88.8%と高い陽性率を示した。また、*P.dagmatis*についても、培養検査25.0%、PCR45.0%の陽性率であった。このうち、*P.dagmatis*のみ陽性を示したものは1検体のみであり、他の*P.dagmatis*陽性の検体は、全て*P.multocida*も陽性であった。*P.multocida*、*P.dagmatis*、*P.canis*および*P.stomatis*の4菌種がイヌ・ネコに関するヒトの感染症の起病因菌となると考えられているが、*P.multocida*はヒトのパステラ症の原因のほとんどを占めている。その理由として、*P.multocida*のネコの口腔内の保有率が高いことが、その一因と考えられる。

*P.multocida*の口腔内PCR陽性検体71検体中、口腔内のみ陽性だったのは53検体、口腔内と爪の両方が陽性だったのは18検体、爪のみ陽性だったのは0検体であった。*P.dagmatis*の口腔内PCR陽性検体36検体中、口腔内のみ陽性だったのは34検体、口腔内と爪の両方が陽性だったのは2検体、爪のみ陽性だったのは0検体であった。*P.multocida*、*P.dagmatis*のいずれも爪が陽性であれば、口腔内も陽性であり、爪のみ陽性の検体は存在しなかった。パステラ菌は上部気道、消化管の常在菌であるとされており、今回の結果も、爪から検出されたのは、口腔内のパステラ菌が爪に付着して検出されたものと考えられる。ネコの毛づくろいの行動などから、前肢爪のほうが後肢爪より陽性率が高くなるのではと予想していたが、明らかな差は見られなかった。

今回の結果において、菌の分離率とPCRの検出率との間に大きな差が認められたのは、寒天平板を用いた菌分離の検出限界値(10^4 個/g)とPCRによる検出限界値(10^2 個/g)が異なることから、各サンプルに含まれている細菌数により異なる結果が得られたものと考えられた。

次に、*P.multocida*の口腔内陽性率について、調査対象の環境調査との関連を検討した。

品種、ウイルス感染の有無による陽性率の差については、純血種と雑種の集団数、ウイルス陽性と陰性の集団数が大きく異なり、一概に比較することが困難であった。

性別による陽性率の差は見られなかった(オス88.6%メス90.7%)。過去の名古屋市獣医師会の調査では、オスのほうがやや高い傾向(オス91.0%去勢オス96.0%メス75.0%避妊メス82.0%)が見られたが、今回は特定の傾向が見られなかった。

今回調査対象となった名古屋市内の飼猫は、過去の名古屋市獣医師会の調査時より室内飼育の割合が増加しており(67.5%から74.7%)、飼育場所、食餌の場所、トイレの場所、爪とぎの場所や食餌内容についても、ほとんどが室内・ドライフード利用であり、それぞれの集団数が大きく異なり、一概に比較することができなかった。最も集団数の差が少なかった飼育場所について、完全室内飼育とそれ以外で陽性率を比較した結果、88.1%と90.0%で差は見られなかった。また、食餌内容についても、ドライフードのみとそれ以外で陽性率を比較したところ、87.8%と89.7%で差は見られなかった。

年齢による陽性率の違いについては、過去の名古屋市獣医師会の調査では、高齢になるほど高くなる傾向があったが、今回は特定の傾向が見られなかった。(1歳以下92.3% 2~5歳94.4% 6~9歳80.0% 10~13歳100% 14歳以上84.2%)

口腔疾患以外の既往歴の有無による陽性率の差は見られなかった。(有89.7%無90.2%)また、口腔検査での問題点の有無による陽性率の差は見られなかった(有87.9%無90.2%)。*P.multocida*のような口腔内常在菌をネコの症状から判定することは困難と考えられる。

一ヶ月以内の抗生剤の使用や歯石除去の有無により、陽性率に差が見られた(抗生剤有76.2%

無94.2%) (歯石除去有57.1%無93.0%)。 *P.multocida*は多くの種類の抗生剤が有効であり、また歯石に付着した菌の除去によって、今回一時的に陰性になっている検体が存在するものと考えられる。

飼主による口腔衛生管理(ブラッシングなど)の有無による陽性率の差は見られなかった(有90.0%無89.4%)。さらに爪切り処置により、*P.multocida*の爪の陽性率が低下することもなかった(処置有24.0～27.9%処置無17.1～20.7%)。 *P.multocida*のような口腔内常在菌は、飼主によるネコへの直接的な管理によって保菌率を下げることは難しいと考えられた。

他の猫の飼育状況については飼育の有無による陽性率の差は見られなかったが(有91.8%無87.0%)、他の動物の飼育状況の有無による陽性率に差が見られた。(有100%無86.0%)この理由については不明であった。

以上をふまえて、飼育者と飼育動物との関係の調査結果を参考に、今後の対応について検討した。

欧米ではヒトのパスツレラ症の原因として、咬・搔傷など外傷性55%、接触など非外傷性30%となっているが、国内では外傷性30%、非外傷性50%となっている。さらにヒトのパスツレラ症から分離される*P.multocida*は増加傾向にあり、その理由として、家族形態の変化による飼育方法の変化、室内飼育の増加や住宅の気密性の向上など、さまざまな要因からイヌ・ネコとの接触の機会が増加していることが考えられている。また、飼育者が持病により免疫力が低下していたり、免疫抑制剤を服用している場合などに、ヒトのパスツレラ症が重症化する傾向があるため、高齢化の進む国内では、より注意が必要と考えられている。

今回の飼育者と飼育動物との関係の調査からも、咬・搔傷時などでも飼育者はその後の対応として、何もしない、水洗いのみにとどまる例が多く見られ、さらに寝具の共有など接触による感染の可能性については、ほとんどその後の対応はされておらず、あまり警戒していない様子が見られた。

イヌやネコの口腔内常在菌であるパスツレラ属菌は、今回の結果からもネコの口腔内において高い保菌率が示されている。爪についても、必ずしも保菌されているわけではないが、ネコのグルーミングなどの行動によって汚染されていることが示されている。

抗生剤などによる除菌は一時的なものであるため、ヒトへのパスツレラ属菌の感染を予防するためには、イヌやネコがヒトを咬んだり引っかいたりしないよう、穏やかな性質を保つようしつけることが大切であるが、飼育者がイヌやネコに顔をなめさせたりしないようにすることも大切である。就寝中に口元をなめられる可能性があるため、寝室を共有しないことも予防となる。さらに、接触後の手洗いや咬・搔傷時の消毒等の適切な対応も重要である。我々獣医師は、イヌやネコからのパスツレラ属菌の感染の危険性を十分認識し、イヌやネコとの接し方を、公衆衛生の観点から飼育者に啓蒙することが必要となるだろう。

参考資料

- [1] 原弘之、兼島孝：医師から見たズーノーシス、SA Medicine59、(47-53) (2009)
- [2] 厚生労働省：愛玩動物の衛生管理の徹底に関するガイドライン2006
- [3] 名古屋市獣医師会：飼犬・猫のパスツレラ・ムルトシダ保菌実態調査 (1987・1988)
- [4] 名古屋市獣医師会：飼猫の口腔内細菌実態調査 (1995)
- [5] 名古屋市獣医師会：飼猫の爪部における人畜共通感染菌の保菌調査 (1998)
- [6] 荒島康友：新世紀の人獣共通感染症④パスツレラ症、大塚薬報12月号 (2002)
- [7] 荒島康友：新世紀の人獣共通感染症⑤パスツレラ症、大塚薬報1月号 (2002)

別表1 調査対象の環境調査結果①

1 飼育動物												
①品種	②性別	③年齢(歳)	④口腔疾患以外の既往歴	⑤ウイルス感染	⑥一ヶ月以内の抗生剤使用の有無	⑦口腔検査での問題点	⑧歯石除去の有無	⑨爪切りの処置の有無	⑩飼育場所(室内は完全室内飼育、室内外は室内、屋外を出入り、屋外は完全屋外飼育、野良は屋外(野良猫))	⑪食餌内容(ドライはドライフード、缶は缶詰、人は人の食事)	⑫食餌の場所(室内は完全室内飼育、室内外は室内、屋外を出入り、屋外は完全屋外飼育、野良は屋外(野良猫))	⑬トイレの場所(室内は完全室内飼育、室内外は室内、屋外を出入り、屋外は完全屋外飼育、野良は屋外(野良猫))
雑種	オス	15	糖尿	FIV	有	口内炎・口臭	有	無	室内	ドライ・人	室内	室内
雑種	オス	8	糖尿・鼻気管炎	不明	有	口内炎・口臭・涙液	有	無	室内外	ドライ・缶・人	室内	室内
アメリカンショートヘア	オス	8		無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	5	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	3	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	7	無	無	無	口臭	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	9		無	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	8		無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	12	慢性腎炎	無	無	歯石沈着	無	有	室内	ドライ	室内	室内
オス	9	腎炎	不明	有	有	歯石沈着・口内炎	無	無	室内	ドライ・缶・人	室内	室内
オス	1	膀胱炎	不明	有	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
オス	14	糖尿・腎炎	不明	有	有	歯石沈着	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	0	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	4	交通事故	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	14	無	無	有	歯石沈着	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	10	外傷	無	有	無	無	有	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	オス	12	尿閉	無	無	無	無	有	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	メス	13	無	無	無	無	無	無	室内外	ドライ	室内	室内
メス	0	コクシジウム・回虫・寄生虫	不明	有	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	15	慢性腎不全	不明	無	無	無	無	室内外	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	15	後肢潰瘍・断脚	不明	有	無	無	無	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	17	腎不全・FVR	無	有	無	無	有	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	メス	17	慢性腎不全	不明	有	歯石沈着・口内炎	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	15	無	不明	無	歯石沈着・口内炎・口臭・その他	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	12	無	不明	有	歯石沈着・口内炎・口臭	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	7	疥癬・FLUTD	不明	有	歯石沈着・口内炎	無	有	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	メス	17	慢性腎不全	無	有	口内炎	無	無	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	6	無	無	無	口内炎	無	無	室内外	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	4	無	不明	無	口臭	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	3	無	不明	有	歯石沈着	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	19	無	無	無	歯石沈着・口臭	無	無	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	9	無	無	無	歯石沈着・口臭	有	有	室内外	ドライ・缶	室内	室内
メス	18	腎臓病	不明	無	無	口臭	有	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	10	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	8	無	不明	無	無	無	有	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	オス	12	無	不明	有	無	無	有	室内外	ドライ・人	室内	室内
雑種	メス	2	猫小回虫	不明	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	4	無	不明	無	口臭	無	無	屋外	ドライ	野良	野良
メインクーン	オス	6	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	7	子宮蓄膿・外傷	無	不明	口臭	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	0	コクシジウム	不明	不明	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	0	コクシジウム	不明	不明	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	5	無	無	無	歯石沈着・口内炎・口臭	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	不明	M. canis	不明	有	無	無	無	室内外	ドライ・缶・その他	室内	室内
雑種	メス	3	無	不明	無	歯石沈着	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	4	無	無	無	歯石沈着	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	4~5	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	1	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	1	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	0	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	0	無	不明	無	無	無	無	室内	ドライ・その他	室内	室内
雑種	オス	0	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	5	リンパ腫	無	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	オス	1	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	15	無	不明	無	口内炎	無	無	野良	ドライ	野良	野良
雑種	メス	2	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	15	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	不明	骨折	FIV	有	無	無	有	野良	ドライ	野良	野良
雑種	オス	0	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	8	無	FIV	有	口内炎・涙液・疼痛	無	無	野良	ドライ・缶・人・その他	室内	野良
雑種	オス	9	前肢損傷	無	無	無	無	有	室内外	缶	室内	室内
雑種	メス	17	腸炎	無	有	無	無	有	室内	缶	室内	室内
雑種	オス	4	無	不明	有	無	無	有	室内	その他	室内	室内
アメリカンショートヘア	オス	15	腎不全	無	無	口臭	無	無	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	メス	13	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	12	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
トリアインファンクショナル	メス	1	無	無	有	無	無	有	室内	ドライ・缶	室内	室内
雑種	メス	19	無	無	無	口臭	無	有	室内	缶・その他	室内	室内
雑種	メス	6	ストラバイト	不明	不明	無	無	無	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	オス	2	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	3	無	無	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	オス	5	無	不明	無	無	無	有	室内	ドライ	室内	室内
シャム	メス	18	腎機能障害	不明	不明	歯石沈着・口内炎	無	有	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	2	無	不明	無	口内炎	無	無	室内外	ドライ	室内	室内
雑種	メス	11	無	不明	不明	歯石沈着・口内炎・口臭	無	無	室内	ドライ	室内	室内
雑種	メス	13	無	無	無	歯石沈着・口内炎	無	無	室内	ドライ・缶	室内	室内
アメリカンショートヘア	メス	20	無	不明	無	歯石沈着	無	無	室内外	ドライ	室内	室内

※無回答は空欄
 ※検査結果は培養検査(前肢爪・後肢爪・口腔内)PCR(前肢爪・後肢爪・口腔内)の順に陽性は陽、陰性は空欄で記載

別表2 調査対象の環境調査結果②

飼育者と飼育動物との関係(これまで経験のあるものを回答)

①飼育動物に咬まれる

	総数
無	47
有	32

その後の対応	総数
何もしない	3
水洗い	16
消毒	13
病院の受診	4
その他	0

③飼育動物と同じ箸やスプーンを使って食事をする、キスをする

	総数
無	75
有	4

その後の対応	総数
何もしない	3
手洗い・うがい	0
消毒	0
その他	1

②飼育動物に引っかかる

	総数
無	32
有	46

その後の対応	総数
何もしない	12
水洗い	20
消毒	18
病院の受診	5
その他	1

④飼育動物と同じ寝具で眠る

	総数
無	32
有	47

その後の対応	総数
何もしない	37
手洗い・うがい	2
消毒	0
その他	2

別表3 調査対象の環境調査結果と口腔内の*P.multocida*陽性率の関係

1. 飼育動物

②性別

	総数	陽性	陰性	陽性率(%)
オス	35	31	4	88.6
メス	43	39	4	90.7

⑥一ヶ月以内の抗生剤使用の有無

	総数	陽性	陰性	陽性率(%)
有	21	16	5	76.2
無	52	49	3	94.2

③年齢

	総数	陽性	陰性	陽性率(%)
～1歳	13	12	1	92.3
2～5歳	18	17	1	94.4
6～9歳	15	12	3	80.0
10～13歳	10	10	0	100
14歳～	19	16	3	84.2

⑦口腔検査での問題点

(歯石沈着・口内炎・流涎・疼痛・その他)

	総数	陽性	陰性	陽性率(%)
有	33	29	4	87.9
無	41	37	4	90.2

④口腔疾患以外の既往歴

	総数	陽性	陰性	陽性率(%)
有	29	26	3	89.7
無	51	46	5	90.2

⑧歯石除去などの処置の有無

	総数	陽性	陰性	陽性率(%)
有	7	4	3	57.1
無	71	66	5	93.0

2. 飼育状況

①飼育場所

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
完全室内	59	52	7	88.1
その他	20	18	2	90.0

②食餌内容

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
ドライフードのみ	41	36	5	87.8
その他	39	35	4	89.7

⑥飼主による口腔衛生管理(ブラッシング・歯石予防薬・その他)

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
有	10	9	1	90.0
無	66	59	7	89.4

⑧他の猫の飼育状況

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
有	49	45	4	91.8
無	31	27	4	87.0

⑨他の動物の飼育状況

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
有	23	23	0	100.0
無	57	49	8	86.0

3. 飼育者の住居

②住居

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
一戸建	43	41	2	95.3
マンション・アパート	37	30	7	81.1

別表4 調査対象の環境調査結果と爪の*P.multocida*陽性率の関係

1. 飼育動物

⑨爪切りなどの処置の有無

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
有	43	12	31	27.9
無	35	6	29	17.1

2. 飼育状況

⑦飼主による爪切りの実施

	総 数	陽 性	陰 性	陽性率(%)
有	50	12	38	24.0
無	29	6	23	20.7

平成24年度 傷病野生鳥獣保護活動集計

学術委員会

■傷病の状況・結果別保護件数

平成24年4月～平成25年3月

	傷病の状況							結果				
	衝突・転落	病気	骨折	咬傷・外傷	衰弱	その他	合計	放鳥	死亡	保護	不明	合計
平成24年 4月	1		1	1	3		6	4	2			6
5月	2		2	3	9		16	5	5	1	5	16
6月	2		2	3	4	2	13	1	7		5	13
7月	4		2		7	2	15	4	4		7	15
8月	2		4	1	2		9	3	1	3	2	9
9月			1		4		5	2	1	1	1	5
10月			1		4		5	2	1		2	5
11月					4		4	2	1	1		4
12月			2	1			3	1		1	1	3
平成25年 1月	1		5		1	1	8	2	1	3	2	8
2月			2	1	3		6	1	3		2	6
3月	1			1			2		1		1	2
合計	13		22	11	41	5	92	27	27	10	28	92

■種類別保護件数

平成24年4月～平成25年3月

	平成24年												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成25年	1月	2月	
ドバト		3	1	5		2	2		2	3	4		22
キジバト				1			2		1				4
アオバト	1												1
カラス	2		5	1	2	1							11
スズメ	1	9	3	2	3								18
ツバメ		1	1	5	1								8
ヒヨドリ		1			2	1		1		1		1	7
ムクドリ			1										1
メジロ								1		2			3
カモ		1						1					2
シギ	1							1					2
コノハズク	1												1
サギ		1											1
セキレイ				1									1
ミズナギドリ			1										1
オオルリ										1			1
ヒレンジャク											1		1
シロハラ										1			1
ホオアカ												1	1
カワセミ											1		1
コルリ						1							1
ジョウビタキ							1						1
キビタキ					1								1
イタチ			1										1
合計	6	16	13	15	9	5	5	4	3	8	6	2	92

平成24年度 テレフンドクター集計結果報告書

動物愛護委員会

1. 開設日数 **189** 日

2. 動物種別相談件数

	犬	猫	飼鳥	野鳥	エキゾチック	その他	合計
件数	164	264	17	3	10	1	459

3. エキゾチックアニマルの相談件数

ウサギ	ハムスター	リス	カメ	モルモット	フェレット	プレーリードッグ	金魚
4	1	1	3	0	0	0	0
イグアナ	アライグマ	サル	リスザル	コウモリ	モモンガ	ワラビー	ハリネズミ
0	0	0	0	0	0	0	0
スカンク	イタチ	ウーパールーパー	カエル	フクロキツネ	魚	カブトムシ	チンチラ
0	0	0	0	0	0	0	0
タヌキ	トカゲ	ヘビ	ネズミ	その他	不明	合計	
1	0	0	0	0	0	10	

4. 相談者の住所別調査

	名古屋市内	県内(市内除く)	近隣地区	遠隔地区	不明	合計
犬	112	17	3	17	15	164
猫	147	27	3	53	34	264
飼鳥	6	3	2	4	2	17
野鳥	3	0	0	0	0	3
エキゾチック	7	0	1	1	1	10
その他	0	1	0	0	0	1
合計	275	48	9	75	52	459

近隣地区…岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井

5. 名古屋市16区別の相談件数

	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田
犬	3	3	11	7	10	7	3	2	4
猫	12	8	10	2	3	6	27	2	3
飼鳥	0	0	0	0	1	0	2	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	3	0	1	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	18	11	22	9	15	13	32	4	8

	中川	港	南	守山	緑	天白	名東	不明	合計
犬	12	2	15	4	6	5	12	6	112
猫	14	6	4	18	6	13	8	6	148
飼鳥	0	2	1	0	0	0	0	0	6
野鳥	1	0	0	1	0	1	0	0	3
エキゾチック	0	0	0	0	0	1	0	0	7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	10	20	23	12	20	20	12	276

6. 愛知県内(市内除く)、近隣地区

	愛知	岐阜	三重	静岡	長野	滋賀	合計
犬	17	1	2	0	0	0	20
猫	27	1	0	1	1	0	30
飼鳥	3	2	0	0	0	0	5
野鳥	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	1	0	0	0	0	1
その他	1	0	0	0	0	0	1
合計	48	5	2	1	1	0	57

7. 遠隔地からの相談件数

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木
犬	0	0	0	0	0	0	0	0	0
猫	4	0	0	0	2	0	2	0	0
飼鳥	1	0	0	0	0	0	1	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	0	0	0	2	0	3	0	0

	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	新潟	富山	石川
犬	0	0	0	2	1	1	3	0	0
猫	1	5	1	5	5	3	2	0	0
飼鳥	0	0	0	0	0	0	1	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	1	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	5	1	7	7	4	6	0	0

	福井	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山
犬	0	0	5	2	0	0	0	0	0
猫	0	1	13	0	1	0	1	1	1
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	18	2	1	0	1	1	1

	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎
犬	0	0	0	3	0	0	0	0	0
猫	0	1	0	0	0	0	2	0	0
飼鳥	0	0	0	0	0	0	1	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	0	3	0	0	3	0	0

	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	アジア	アメリカ	その他	合計
犬	0	0	0	0	0	0	0	0	17
猫	0	1	1	0	0	0	0	0	53
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	4
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	1	0	0	0	0	0	75

8. 相談内容と内訳

	治療相談	一般知識	避妊・去勢	伝染病予防	行政関係	その他	合計
犬	84	21	3	3	0	18	129
猫	111	45	15	2	3	25	201
合計	195	66	18	5	3	43	330

9. 治療相談の内容と内訳

	内 科							合計
	消化	循環	呼吸	泌尿	生殖	眼	歯・口腔	
犬	26	6	5	11	4	2	15	
猫	30	1	8	29	6	6	7	
合計	56	7	13	40	10	8	22	
	内 科						合計	
	耳鼻	皮膚・爪	神経	内部寄生虫	外部寄生虫	その他		
犬	1	10	8	1	0	20	109	
猫	2	12	6	0	0	38	145	
合計	3	22	14	1	0	58	254	

	外 科				合計
	外傷	骨折	捻挫	その他	
犬	3	0	0	5	8
猫	7	0	0	6	13
合計	10	0	0	11	21

	人獣共通伝染病				合計
	皮膚真菌	狂犬病	微生物	その他	
犬	0	2	0	0	2
猫	0	0	0	0	0
合計	0	2	0	0	2

長寿功勞動物表彰式

動物愛護委員会

長寿功勞動物表彰式は平成25年9月21日(土)獣医師会館 2F大講堂で行われました。名誉特別長寿猫表彰は最高齢24歳を含め8頭、特別長寿表彰は48頭、長寿表彰は105頭でした。

次 第

- 記念講演
「ネコのおはなし」
名古屋市東山動物園
園長 橋川 央 先生
- 功勞動物表彰式
(東山動物園 ジャガー)
- 名誉特別長寿猫表彰式
(23才以上)
- 特別長寿功勞猫表彰式
(20～22才)
- 長寿功勞猫表彰式
(18・19才)
表彰状と記念品の授与



【 表彰長寿猫 集計結果(性別・年齢内訳) 】

年齢	18才	19才	20才	21才	22才	23才	24才	25才	合計
♂	24	14	14	1	2	2	0	0	57
♀	49	18	21	8	2	5	1	0	104
合計	73	32	35	9	4	7	1	0	161



東山動物園の長寿動物へのお祝い寄贈

動物愛護委員会

毎年、東山動物園で「長寿動物を祝う会」が開かれますが、それに合わせて、今年は、下記のジャガー（名前チャゲ）に、長寿のお祝いとして好物の馬肉50kgを寄贈しました。（平成25年度は9月16日に「長寿動物を祝う会」が予定されておりましたが、台風のため中止となりました。）



ジャガー（東山動物園）

Panthera onca

- ・名前 チャゲ(チャゲ&アスカより命名)
- ・性別 メス
- ・年齢 19歳
- ・生年月日 1993年9月29日
- ・来園日 1995年4月3日(わんぱくこうちアニマルランドから来園)

エピソード

2012年5月頃から、高齢のためか体調を崩しはじめました。

昨年末に生死の境を彷徨って、誰もが死を覚悟しましたが、奇跡的に回復しました。今も葉は手放せませんが、よく動き、食欲も旺盛で元気です。

優しい性格で、他のネコ科動物に比べて人見知りがなく素直で良い子です。物怖じしない性格が長生きの秘訣かもしれません。特別甘えん坊というわけではありませんが、時々機嫌がよいと、スリスリと甘えてくる姿がかわいいです。

朝一番に運動場へ走って出ていき、お気に入りの丸太にまたがって爪を研いだり、時々ゴロンゴロンしたりする姿が見られます。

エサは、鶏肉、牛レバー、馬肉などを与えていますが、特に鶏肉が好物です。



絵本寄贈

動物愛護委員会

平成25年8月2日(金)に幼児期よりの「生命を尊重し豊かな心を育む」情操教育の一環として、名古屋市立幼保育園に今年度は15冊を一組にして10組、計150冊の絵本を寄贈しました。

毎年、名古屋市長に接見、会長より直接の手渡しを行っており、30年間継続寄贈しています。



寄贈図書

- くんくんふんふん
- うごいちゃだめ!
- エゾオオカミ物語
- 旭山動物園物語オオカミの森
- ことりのゆうびん屋さん
- おなかのすいたばったのトト
- ちいさなねこ
- わにわにとあかわに
- いけのおと
- ぐるんぱのようちえん
- かばくん
- よるくま
- ごんぎつね
- かくしたのだあれ
- どうぶつのおかあさん

動物フェスティバル2013なごや

動物フェスティバル実行委員会

動物フェスティバル2013なごやは平成25年10月13日(日)久屋大通公園久屋広場にて開催されました。今年の動物フェスティバルも天候が良く、約2万1千人の来場者に恵まれました。長寿犬の表彰も無事執り行われ、表彰犬御家族、一般来場者にも楽しんで頂けたと思います。さらに、今年は、しつけ訓練の相談コーナーを設けました。多くの来場者が相談に訪れ好評でした。



行事	参加数	
フェスティバル参加者	21,000	
長寿犬表彰	96	
動物愛護週間の図画募集	849 (応募者)	
ボーイスカウト・ガールスカウト・高蔵高校 協力	110	
各 コ ー ナ ー	譲渡犬猫写真展(愛護センター)	500
	犬のしつけ相談(愛護センター)	100
	動物愛護ビンゴ(愛護センター)	500
	災害対策コーナー (災害のそなえ、マイクロチップ、被災地活動紹介、骨髄バンク)	300
	ペットフードの紹介 (日本ヒルズ・コルゲート㈱、ROYAL CANIN)	1,000
	動物クイズ、紙しばい (日本愛玩動物協会)	1,800
	アニマルメイクアップ (名古屋モード学園)	146
	犬のしつけ(ボンガー)	300
	犬のしつけ(D-BAC)	300
	ポニー馬車に乗ろう	246
	ふれあい動物園(いちご動物園)	1,000
	盲導犬紹介(中部盲導犬協会)	500
	介助犬紹介(日本介助犬協会)	600
	ボーイスカウトコーナー	250
	ガールスカウトコーナー	250
	健康相談(名古屋市獣医師会)	38
	健康チェック(名古屋動物看護学院)	30
	動物愛護推進員紹介 「はじめまして動物愛護推進員です」・ ペットと暮らすきれいなまちづくり (食品衛生課・保健所)	200



平成24年度 公益社団法人名古屋市獣医師会 動物看護師認定試験

動物看護師認定委員会

平成24年度公益社団法人名古屋市獣医師会動物看護師認定試験を、平成25年3月2日に実施致しました。

当会のホームページで広報しましたところ、名古屋動物看護学院の学生15名が受験されました。当会、動物看護師認定委員の監督のもと、動物看護に関わる筆記試験・筆頭試験を行い認定試験といたしますが、2月20日に行われた名古屋動物看護学院卒業試験の合格者は筆記試験を免除されました。

受験した15名のうち動物看護師認定委員会を経て、15名が合格者として平成25年3月6日当会理事会に報告され、動物看護師認定が承認されました

会館委員活動報告

会館運営委員会

公益社団法人として名古屋獣医師会館は名古屋市獣医師会会員だけではなく広く市民の方に利用していただきたいと思っています。そのために、今年度は名古屋市獣医師会館施設・設備利用＜使用規程＞を一部改訂し、新たに名古屋市獣医師会ホームページに「会館利用案内」の掲載を開始いたしました。また、100名収容の大講堂に固定型プロジェクターや電動式120インチのスクリーンを新たに導入し、設備の充実を図りました。このように、一般市民の皆様が利用しやすい会館施設となるよう努めています。会館の利用に関しては<http://www.nagoyavet.jp/guidance.html>をご覧ください。

社会福祉法人 中部盲導犬協会への寄付

平成25年4月1日から平成26年2月28日までの寄付金合計金額は、以下のようになっています。

〔 合計金額 ￥ 95,164 〕

東北関東大震災動物救護活動等支援義援金

平成25年4月1日から平成26年2月28日までの義援金合計金額は、以下のようになっています。

〔 合計金額 ￥ 2,194 〕

大 懇 親 会

福祉厚生委員会

平成25年10月13日に開催いたしました。会員の皆様の日頃のご活躍を労うとともに、会員同士が絆を深め、一枚岩となって活動する一助となるよう設営いたしました。

荻曾会長、大藪理事の挨拶の後、渡辺泰夫相談役の乾杯の御発声により開会しました。福祉厚生委員会委員による余興などもあり、大変に盛大な会となり、屈託のない笑顔と笑い声があふれていました。最後は、三浦隆監事より監事所見を頂戴し、公益法人としての重責を各々が心に刻み、身が引き締まる思いで閉会いたしました。



クロサイ

三 浦 隆

アフリカは、野生動物のハンティングの歴史である。生きる為の現地人の狩猟、近年にはアラブ王族や特にセレブな欧米人にてビッグゲームとしてライオン、豹、ゾウ、カバ、ワニ、サイなど多くの動物が標的として犠牲になった。昨年は、スペインの国王がWWF(世界自然基金)のスペイン名誉総裁でありながら高額な費用を掛けて象狩りを行う事が明るみになって批判を受けて辞職した。ナブニアは憲法で野生動物の保護を謳い、自然公園内で野生動物を保護しながら公認狩猟を認め、動物の種類にて値段を決め、ハンターはトロフィーとして一部の頭部だけを剥製にしたり、角付きの頭蓋骨を飾りにしたり、獲物の肉は手伝う部族に分けて、金銭収入と食肉の流通を助ける。これが上手く機能しているようだ。

今、アフリカの大自然は、中央の一部のコンゴ未開の森林地帯だけが残っているだけと云われている。

野生動物は、広大なエリアを必要として、種保全と食料を住みかの条件とする。人は、象牙の装飾品を好み、中でも古くから象牙のキリスト像が尊ばれる。サイの角などは1000万円近く漢方薬として抗がん剤(ベトナム、中国)、アラブでは高貴な人の護身用のナイフの鞘として、東南アジア、北アフリカで需要があり、そして野生動物の移動で民有地では一部狩猟や自然保護区では密猟が行なわれ、サイなどは予防するため角を前以って切断して密猟予防する。生活のため僅かな手間賃で密猟し同元は高額な利益を得る。



アフリカを大きく分けると北アフリカの危険地帯(マリ、ニジェール、モーリタニア)一部の動乱の中央アフリカ(中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国)地帯と平静なケニア、南アフリカと広大な大陸である。国際テロ組織、富と貧困や汚職、部族、宗教間の戦いで、人口の爆発的な増加と政変の度に人々と野生動物が犠牲になる。

土地に就いても南アフリカでは世界で一番ゴルフ場が多く、広大な土地が開発されている。

現在、アフリカは人口の増加と経済が最も成長している大陸である。

野生の象もサイも絶滅危惧種である。特に野生のサイを見る為にケニアを訪れた。新婚旅行はサイの居るケニアと、乗馬して野生動物を見るサファリに興味を持ったことだ。サイはアフリカでも見られなくなっている。国立公園でもサイのいる公園は少なくなって、象のように家族で集団生活することもなく、単独か2頭オス、メス二対で生活して、子供の死亡率が高いサイは特に頭数が激減していて、金銭や動乱にてサイの角が目的の密猟が行なわれている。

代表的なアンボセリ国立公園、ナクル湖国立公園、マサイマラ国立保護区を訪れた。

ケニアのアンボセリ国立公園は、ビクトリア湖と大地溝帯の間に在り、タンザニアのセレンゲ平原とキリマンジェロが特に美しく見える場所で、日本人には冠雪の富士山の風景と比べ特に親しみを感じる。富士サファリパークと写真で見るとよく似ている。乾季と雨季があり、タンザニア側のセレンゲ大平原に草原の草を求めて、10月～11月にヌーの100万頭の大移動(季節移動)グレート・マイグレーション(Great migration)が見られる。セレンゲ国立公園の北部地域として同一エコシステム(生体系)を形成している。広さは大阪府の大きさである。後の公園は飛び地で地域が限定され狭い公園内で野生動物を見る事が出来る。



ケニアには50部族があり、中でもマサイ人は伝統や文化に価値を置く誇り高き人で、牧畜生活を営んで、習慣として狩猟は行わない。マサイマラはマサイ族とマラ川に由来する。

人口増加に伴う農耕地、家畜放牧地の需要高まりが、一次産業に依存する周辺住民と野生生物の共存という難しい問題に直面している。自然公園(マサイマラ)の中で野生動物かなと見間違ふ牛、山羊の放牧が見られる。

ナイロビから160kmのナクル湖国立公園で、ナクル湖のレイクナクルロッジは遠くに湖面が眼に入る高台の広い敷地に幾つかのコテージが作られていて、テラスから電柵の向こうでシマウマ、バッファロー、トムソングゼル、猿を背景に湖面をテラス越しに見る事が出来る。この公園は大きな町から未舗装の側道に入って行くと、私には興味がある馬が見えて、隣接地に放牧の馬と厩舎が見える乗馬クラブがあり、古びた車専用の国立公園入口のゲートがある。このナクル湖公園は周囲180kmの柵で囲まれて、野生動物の密猟を予防する。湖面の反対側の森を抜けると遠く丘陵地に住宅地が見えてくる。近くの草原でサイを確認できた。ナクルでは25頭以上のサイの生息が確認されている。

早朝のサファリカーでは、高台のロッジから下った森林地帯を流れる川沿いの道路からエジプトガン、バッファロー、トムソングゼルの集団やウオーターバックなどが森林の切れる所で、偶然に6人乗り車の屋根を開けた展望から真下にクロサイの親子を見る事が出来た。灰色の巨大な長い反り角を持った希少動物のクロサイで、親子でいるのを短い時間で観察できた。シロサイと口の構造が違うだけで見分けにくく、草原の草を食べるのがシロサイで樹の枝の葉を食べるのがクロサイと云われ、ナクル湖では滞在中に7頭以上のサイと、車からすぐ下に親子のサイを見る事が出来た。車の前を横断して右反対側に警戒しながら、子供と母親サイは食事時間で樹の葉を食べながら移動して行き、サイの顔が正面に捉えられて、どこを見ているのか分からない小さい眼と筒状の小さい耳をしきりに動かし匂いを嗅いでいる。我々に無関心のサイは匂いもせず音もしない静かな動きで白い灰色の大きな動物の背中が見え隠れして森の中に消えていく。

また、近くで4～6頭シマウマが遊んでいる草原側のナクル湖岸で許可を得て車の外に出て、歩いて干上がっている柔らかいドロの土と糞を避けて、場所を選びながら湖面に出来るだけ近づいてフラミンゴの写真を撮る。この時期はフラミンゴ100万羽の大集団を見る事は出来ないが、ピンクフラミンゴとペリカンを遠方に見る事が出来た。フラミンゴの生息に必要なソーダ湖の藻類と湖水の利用(観光客の増加、農地、市街化、産業)と生活排水の水質の変化が年々問題になってきている。公園内では肉食獣のライオン等が生息していないのか見る事が出来なかった。ロッジでは乗馬が出来る案内が用意されて、私有地での乗馬でのサファリである。

マサイマラでは、マサイ族の集落を訪問して、男性のジャンプダンスで歓迎される。これは女性の気を引くためのダンスで高さを競うのだが意味もわからず挑戦した。集落は広く垣根で囲われ粗末な土家が数件と、家畜小屋と柵、野菜を作る畑、土産物を作る露店が広く別の柵で覆われて、一夫多

妻で何かを買ってもらいたい売り子の女性陣や子供が付いて回っていた。

早朝と夕方のサファリの間、日差しの強い午後には1人ライフル携帯の軍服を着たガードマンやマサイ族の案内人が付いたエコツアーでマサイ川を上流4km位歩いて探索する。アカシヤの白小さい花と中には少数の黄色の2種類あり、歯が白いマサイ族の歯磨きに使う樹の枝、足跡や糞で動物種など教えてくれる。集落が近くにあるのか、子供達は普段は危険のない浅瀬を選んで渡るが、対岸に学校が有り川が増水した時の堅牢な吊り橋を渡った。下の川にはカバ、ワニが居る。小型のトラクターが動いたような軌道のカバの通り道が幾重にも作られていて、夜間に陸上に上がってかなり遠方まで草を食べに行っている。川の急斜面を登る通路が排水溝のように大規模に出来ていて、かなりの頭数が生活している。川の深い淵には5~6頭の巨大なカバが顔を出して警戒していた。目に付くアカシヤの樹は棘があるが、キリンの大好物のアフリカ樹だけあって大木になって成長している。牛と羊の放牧がおこなわれ野生動物と共存している。

3ヶ所の国立公園、保護区で動物では、サイ、キリン(マサイキリン、アミメキリン)、象、シマウマ、ライオン、豹、ハイエナ、ガゼル、イボ猪、コヨーテ、などを見る事ができたが、アミメキリンが特に目に着いた。不思議に思ったのは、公園の中にローカル空港があってナイロビから空路、短時間で公園に行くことが出来る。直接入園できるアンボセリ1ヶ所、マサイマラには2ヶ所の舗装されていない赤土の滑走路のローカル空港がある。

マサイマラでは軍服を着てライフルを持った空港の警備員が一人いて、この飛行場を管理している。小セスナ機や20人位が乗れる中型機が定期で運行されていて帰路に約1時間10分機上してナイロビの国内空港に着陸した。マサイマラは距離にして250km、15分位で1ヶ所飛行場に降りて乗客を2人乗せて、満席と荷物も沢山で飛び立った。予約した人だけが機上出来る。機内は黒人男性機長と黒人女性副機長の操縦がコクピットの向かい席からよく見えたが、4列の座席が狭いのと暑いし上下に揺れ気持ち悪くなる。特に、マサイマラ行きの舗装してない砂塵が舞う4時間の悪路を思うと飛行機の方が楽だと思う。陸路で全コース800kmでした。

ケニアは、隣国にソマリア、コンゴに接しテロリスト、不審者の侵入を防ぐために所何処国道を狭め車の検問を強化させていた。

H25年7月にナイロビのショッピングモールでテロリストの襲撃事件があったが、ケニアは特に観光に力を入れている。世界中から野生動物を見る為にカメラの愛好家、キリマンジェロの登山を目的に訪れる。



恥かしいと思う気持ち

小島健治

小学校高学年のある日、理科の実験室で授業が行われた時の事です。一つの実験台の周りに5～6人が座って授業の冒頭、先生(男性)から本日の授業内容の説明を受けていたのですが、実験台の正面には洗い場が付いていて、使い終わった薬液を流したり水洗いができるようになっていました。

私たち児童に背を向けて、先生が一心不乱に授業内容を黒板に書いている最中の事でした。何を思ったのか同級生の久賀君(仮名)はふらふらと自分の席を離れて、実験台正面の洗い場に設置してある水道の蛇口の上に両腕を乗っけたり顎を乗っけたりして、横着な態度で授業を受け始めました。なぜそのような行為に出たのか定かではありませんが、もしかすると蛇口や水道管がひんやりして気持ちよかったからかもしれません。

やがて久賀君の重みに耐えかねて、“ベシッ!”という鈍い音を立てて水道管がへし折れて、水道水が吹き上がりました。思いもよらぬハプニング発生に周りの児童はどう対処して良いのか分からず、ただ突っ立って噴水を眺めているだけでした。あつという間に床は水浸しになり、焦った先生が「雑巾を持って来てかぶせろ!」とか「バケツを持ってこい!」と児童に指示を与えて、さらに先生自らが元栓を閉めて、水道を止めることによって事態は収拾しました。その後はクラスの児童全員で後片付けすることになり、当然の事ながらその日の理科の授業は中止になりました。授業を潰された先生はカンカンに怒っていましたし、問題を引き起こした久賀君は恥かしそうにうつむいて、雑巾で床の水を拭き取っていました。

我が身を振り返れば、私自身随分と恥かしい思いを繰り返しながら世の中の規範を身に付けて来たように思いますので、他人の事を悪く言えませんが。

それでは動物にも恥かしいという感情はあるのでしょうか?自分の行為を恥かしいと感じるにはその前提として自己を認識できる知的能力を持っていることが必要で、多くの動物にはそのような知的能力は備わっていないと考えられているようです。自身が周りからどのように見られているかを理解する知的能力がなければ恥かしいという感情も生まれてはこないというわけです。動物が自己認識しているのか、その能力があるのか無いのかを確かめるためにチンパンジーやオランウータンといった霊長類を用いて「鏡の実験」が行われています。チンパンジーに麻酔をかけ、顔に化粧をして目覚めたところで鏡を渡すと、じっとのぞき込み、指で自分の顔を触り、その指を調べてそれから化粧を落とそうとするそうです。オランウータンも同様の行為を示すそうで、これは彼らが鏡に映っている姿を自分だと認識している、鏡の中に自分を見ている、つまり自分という存在を認識する複雑な知性を有している証拠だと考えられています。

しかし「霊長類程明らかではないけれども、野生のヒヒやライオンにも自己認識能力があるのではないかと思わせる行動を示すことがある。」という動物行動学者もいるそうです。

自己認識を基としてきまり悪さや恥かしさといった感情が生まれてくるわけですが、このあたりの研究は今後さらに進んで、詳細なメカニズムが解明されることだと思います。



参考書籍 ・霊長類のこころ 適応戦略としての認知発達と進化 ファン・カルロス・ゴメス著 長谷川真理子訳 新曜社
・ゾウがすすり泣くとき 動物たちの豊かな感情世界 ジェフリー・M・マッソン、スーザン・マッカシー著 小梨直訳 河出書房新社

正しいことを言うときは 少しひかえめにするほうがいい

桑 原 康 人

保田先生から寄稿文を何か書いてくださいと言われ安請け合いをしたのはいいですが、2月初め締め切りとのことで、どうしようかと思いつつ、3分の1程書いたところで、ニュースで悲報を知りました。詩人の吉野弘さんが亡くなられたそうです。

吉野さんは、私の詩は作者不明の民謡のようなもので、著作権料はいりません。どうぞ自由にお使いください。と言われていたとのことでしたので、私のつたない文章より、吉野さんの詩を紹介して寄稿文としたいと思います。

「祝婚歌」

二人が睦まじくいるためには愚かであるほうがいい
立派過ぎないほうがいい
立派過ぎることは長持ちしないことだと気づいているほうがいい
完璧をめざさないほうがいい
完璧なんて不自然なことだどうそぶいているほうがいい
二人のうち どちらかがふざけているほうがいい
ずっこけているほうがいい
互いに非難することがあっても非難できる資格が自分にあったかどうか
あとで疑わしくなるほうがいい
正しいことを言うときは少しひかえめにするほうがいい
正しいことを言うときは相手を傷つけやすいものだと気づいているほうがいい
立派でありたいとか正しくありたいとかいう無理な緊張には色目を使わず
ゆったりゆたかに光を浴びているほうがいい
健康で風に吹かれながら生きていることになつかしさにふと胸が熱くなる
そんな日があってもいい
そしてなぜ 胸が熱くなるのか黙っていてもふたりにはわかるのであって
ほしい

吉野 弘

野鳥撮影、始めてみますか？

鈴木克弥

一昨年秋、病院裏の池を散歩していると、水面を猛スピードで滑空するコバルトブルーの小さな鳥を見かけました。急いで追いかけたけれど姿は見えず。カワセミかな、と思いつつ『溪流の宝石』と呼ばれる鳥がこんな市街地の汚い池にいるのか半信半疑でした。

その日以来、探索を始めたのですがなかなか見つかりません。あれは夢か幻か？と諦めかけていたところ、池の藪に潜んでいるお爺ちゃんを発見しました。声をかけても「なんにもおらんよ」の一点張り。翌日行っても同じ返事で、なかなか敷居が高そうです。

まずは形からと、同じカメラを購入して首から下げて行ったら「カワセミおるけど人が近寄ると逃げるんだわあ」って教えてくれました。どうやら歩き回って探してもダメで、藪に潜んでじっと待つのがコツのようです。「ス、スミマセンでしたっ！」「ええよ、アンタもここで待ってりゃあせ」なんて感じでお友達になりました。

僕が購入したのはCanonのSX50HSという光学50倍の超望遠コンパクトデジカメで、通常のデジカメで小さな点にしか見えない鳥が、このカメラなら画面いっぱいに写ります。月のクレーターだって撮れます。別の使い道を考えている先生…いけませんよ！



SX50HS (35,000円程度です)



月(SX50HS)



初カワセミ(名東区・SX50HS)

お爺ちゃんの所に通うこと1週間、ついにカワセミを撮影できました。30m以上先で画質もイマイチだけど、撮れた感動は今でも忘れません。お爺ちゃんからは近隣の鳥情報を教えて頂き、今まで図鑑でしか見た事のない鳥を市内でたくさん撮影する事ができました。



アオバズク(千種区・SX50HS)



ヒレンジャク(南区・SX50HS)



サンコウチョウ(西区・SX50HS)

その後の半年は撮影した鳥の種類が増えていくのが楽しくて、仕事前の早朝など僅かな時間で近隣のフィールドへ通いました。するとたくさんの鳥友達ができ、皆さん拘りを持って撮っている事がわかりました。旬の鳥を可愛く撮る方、珍鳥を求めて全国を旅している方、『トマリモノ』(静止の美しさ)、『トビモノ』(飛翔の瞬間美)、ある特定の鳥だけを年中追い求めている方、風景写真の中に鳥をアクセントとして入れる方など多彩です。

カワセミ撮影の醍醐味は、何といてもダイビングして魚を捕獲した瞬間とその飛翔です。ところが、SX50HSでは遠くに留まっている鳥をきれいに撮れても、ダイビングの瞬間は捉えられません。そんな写真を撮るにはどうしたら良いのかと思案していたところ、ある池の畔で運命の出会い(?)がありました。その方は素晴らしいカワセミの写真入り名刺を出して「仲間で勉強会やってるから来てみたら？」と誘ってくれました。



先輩方に頂いた鳥名刺

※住所氏名などの個人情報は画像編集で消去してあります。

早速、集まりに参加するとそこは猛者共の集団。上から下まで全身迷彩服に身を包み、バズーカーのような望遠レンズを抱えています。もうバードウォッチングなんて生ぬるいもんじゃないです。あんたら軍隊か??ただ、見せて頂いた写真の素晴らしいこと!!

僕のSX50HSでは到底撮れない飛翔やダイビングの瞬間が満載です。でも、これらの一眼レフ機材は価格も桁が違います。「ハマると大変だからこっちの世界には来ない方がいいよ」なんて言われたりもしましたが…今ではどっぷりハマって『トビモノ』専門です。



『こっちの世界』にハマった姿



警戒心の強い鳥には隠れ蓑の術



『こっちの世界』で撮れる瞬間

なかなか時間が取れないので月に1回程度の楽しみですが、こんな恰好して森や河原に潜んでいると、普通に生活しては到底見る事のできない野生の瞬間に出会えます。

でも、ここまでの装備でなくても、『トマリモノ』やゆっくり飛ぶ鳥の飛翔なら、前述のSX50HSがあれば市内でもたくさんの野鳥を撮影できます。ただ、これらの鳥はいつも居るわけではなく、1年のうち数日しか見られない鳥もいますから、情報収集と運が重要です。あとは『鳥に近づき過ぎない』などのフィールドマナーを守ってくださいね。



アカゲラ(緑区・SX50HS)



オシドリ(天白区・SX50HS)



アカショウビン(千種区・SX50HS)

さあ、始めてみますか?自分のペースで楽しめますし、怪我の心配もありません。ただし、夢中になり過ぎて『こっちの世界』にハマらぬよう、くれぐれもご注意ください。

同好会報告

テニス同好会

代表 桑原康人

今年も暖かい時期は休眠していましたが、寒い中どうにか2回行いました。来年度こそはもっと多く開催したいと思いますので、その節はより多くの方のご参加をお願いいたします。初心者の方、スタッフの方も大歓迎です。

よろしくをお願いいたします。

●開催日

- ①平成26年1月31日(金)
東山テニスセンター
野外コート / 12:30 ~ 14:30
室内コート / 14:30 ~ 16:30
- ②平成26年3月14日(金)(予定)
東山テニスセンター
野外コート / 12:30 ~ 14:30
室内コート / 14:30 ~ 16:30

参加者 / 柴田博人、鈴木直弘、三岡幸司、森島常統、川瀬 清、渡辺 毅、渡辺夫人、桑原典枝、桑原康人



ソフトボール同好会

代表 鈴木克弥

チーム創設8年目のソフトボール同好会は愛知県獣医師会との交流戦などを4日計画しましたが、最終戦が雨天中止となったため試合は3日の開催となりました。

市獣の試合参加人数が減少傾向にあります。日進市や千種区の一般成人チームや製薬会社さん等関係業者さんに依頼して助っ人に来て頂いて交流を図りながら楽しく活動しました。スローピッチルール(山なりの打ちやすい投球)でやっていますので打撃を存分に楽しめ、日頃の運動不足解消、ストレス発散(?)の良い機会となっています。会員は随時募集しておりますので、興味のある方は鈴木克弥(mail@makinoike.com)までご連絡下さい。

●活動記録

第1回 VS 愛知県獣医師会交流戦

4月14日(日) 17:00~21:00

牧の池緑地多目的広場

第2回 VS 愛知県獣医師会交流戦

6月23日(日) 17:00~21:00

牧の池緑地多目的広場

第3回 VS 愛知県獣医師会交流戦

9月29日(日) 17:00~21:00

牧の池緑地多目的広場

第4回 VS 愛知県獣医師会交流戦

10月20日(日) 雨天中止



名古屋市獣医師会 行事

平成24年度

3月22日 | 名古屋市獣医師会 臨時総会

平成25年度

4月4日 | 狂犬病予防集合注射事業
～26日

4月21日 | 岐阜大学動物病院獣医臨床セミナー (共催)
演題: 教育講演 - 周術期の体温管理 -
講師: 柴田 早苗 岐阜大学動物病院(麻酔科)
演題: 症例検討【1】 貧血診療のビットフォール
- たかが貧血, されど貧血 -
講師: 鬼頭 克也
岐阜大学動物病院(血液内科)
演題: 症例検討【2】 猫の骨軟骨腫症の一例
講師: 藤田 誠司 岐阜大学動物病院(腫瘍科)

5月26日 | 名古屋市獣医師会 定時総会
名古屋市獣医師会・名古屋市獣医師政治連盟
懇親会

6月1日 | なごやかキャット事業 手術補助開始

8月2日 | 動物優良図書絵本(15冊を10組)寄贈

9月21日 | 長寿功労働物表彰式
・記念講演 『ネコのおはなし』
名古屋市東山動物園 園長
橋川 央 先生
・功労働物表彰式
東山動物園 ジャガー(19歳)・名誉特別長寿
猫(8頭)・特別長寿功労働猫(48頭)・長寿功勞
猫(105頭)

9月16日 | 東山動物園のジャガー(19歳)に長寿のお祝いと
して好物の馬肉50kgを寄贈しました
(平成25年度は「長寿動物を祝う会」が9月16日
に予定されておりましたが、台風のため中止と
なりました)

10月8日 | 名古屋市獣医師会 学術セミナー
講師: 佐伯 英治 先生(株式会社サエキサイエ
ンス リサーチ&コンサルタンツ)
演題: 『ズーナーシスとしてのトキソプラズマ
に関する最近の話題』

10月10日 | 名古屋市獣医師会 輸血セミナー
講師: 小川 博之 先生(JARMeC)
演題: 『輸血製剤流通実現に向けた動き』
講師: 中村 遊香 先生(株式会社共立製薬)
演題: 『輸血に必要な技術』
講師: 山下 傑夫 先生(JARMeC)
演題: 『臨床現場での輸血の実際』
講師: 湯木 正史 先生(名古屋市獣医師会)
演題: 『名古屋市獣医師会輸血システムのガイ
ドライン』

10月13日 | 動物フェスティバル2013なごや(久屋大通公園)
親睦会: 会場『シルクロード』

10月27日 | 岐阜大学動物病院獣医臨床セミナー(共催)
演題: 教育講演 - がんを知り、がんと減らす
犬がん登録を『岐阜県』からはじめよう -
講師: 丸尾 幸嗣
岐阜大学動物病院(腫瘍科・比較がんセンター)
演題: 症例検討【1】 原発性上皮小体機能亢進
症の犬の4例
講師: 矢野 将基 岐阜大学動物病院(腫瘍科)
演題: 症例検討【2】 猫の胸椎骨肉腫の2例
講師: 浅田 慎也 岐阜大学動物病院(外科)

11月27日 | 公益法人立入検査

1月16日 | 名獣JARMeCセミナー麻酔学ベーシックコース①
講師: 長濱正太郎 先生(VAS 小動物麻酔鎮痛
サポート・JARMeC麻酔科(非常勤))
演題: 『麻酔薬関連薬の特徴』『バランス麻酔の
概念』『周術期管理計画の立て方』

3月13日 | 名獣JARMeCセミナー第2回麻酔学ベーシック
コース②
講師: 長濱正太郎 先生(VAS 小動物麻酔鎮痛
サポート代表・JARMeC非常勤)
演題: 『麻酔関連薬の特徴【復習】』『バランス麻
酔の考え方』『麻酔計画の立て方』『モニ
タリングについて』

3月19日 | 名古屋市獣医師会 臨時総会

退会者報告

平成25年3月31日に福澤渡先生(中村区)・小島治夫先生(港区)、平成25年12月31日に加藤喜
司夫先生(瑞穂区)が本会を退会されました。

物故者追悼

平成25年3月23日 神原八仁先生がご逝去されました。謹んで心からお悔やみ申し上げます。

犬・猫用

動物用医薬品

ネコカリシウイルス感染症と

・食欲、元気、鼻水、流涎、口内炎等の臨床症状を改善します。

イヌパルボウイルス感染症に対する治療薬です。

・脱水症状、食欲、元気、下痢、嘔吐等の臨床症状を改善します。
・死亡率の低下が認められました。

ネコインターフェロン(組換え型)製剤

インターキヤット®

劇

Intercat®



新発売

ご要望にお応えして
個包装タイプ新登場!

効能・効果：ネコカリシウイルス感染症
イヌパルボウイルス感染症

1箱1バイアル入り



1箱5バイアル入り



製造販売業者 **TORAY** 東レ株式会社
東京都中央区日本橋室町2-1-1

発売元 **K** 共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南1-5-10

<http://www.kyoritsuseiyaku.co.jp>

1年間のフィラリア予防を、「今日」。



1回の注射で、12カ月間効果が持続

注射用 **プロハート[®]12**

動物用医薬品 要指示 犬フィラリア症予防剤

ゾエティス・ジャパン株式会社

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7

CA-1303-36-HM-C33-01

zoetis[®]

一つの尊い命

ひと昔前、ペットの命はとても軽く見られ、お経をあげてもらったこともなく土に埋められたり、ゴミとして処理されることが一般的でした。しかし最近では、ペットを一つの尊い命家族の一員としてとらえ、葬儀も人間と何ら変わらないものを望まれる方が増えてきています。

同じように、生ある間、愛しい子に少しでも永く幸せな生涯を送って欲しいと望んでいます。当山ではペットを亡くされた際には、「死亡診断書」をかかりつけの先生にお願いし、一つの尊い命として、人間同様の扱いをしてもらえるように努めております。

また、ペットの地位向上の為、賛同して下さる先生方の病院を 当山にてご紹介もしています。

一つの大切な命として親身に対応して下さる良い先生方と出会い、その子の生涯を、一緒にサポートしていきたいと、当山は考えております。

あなたの手で愛する子を幸せへと導いてあげませんか。



総本山

長楽寺動物霊園

☎052-811-6036

〒457-0014 名古屋市南区呼続 4-13-18

<http://www.chourakuji.org>



犬用慢性心不全改善剤 (要指示) 動物用医薬品

アピナック錠
APINAC® Tablets 6mg

小型犬に
ジャストワンサイズ



2~6kgの小型犬に最適な6mg錠!



DSファーマアニマルヘルス株式会社
<http://animal.ds-pharma.co.jp>

お客様相談窓口 ※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。
☎ 0120-511022 (平日:9:00~17:00)



めざすのは人と動物の健康

日生研は、半世紀にわたり蓄積してきた生物科学技術に
最新のバイオテクノロジーを積極的に導入しています。



日生研ニューカッスル生ワクチンS
 日生研C-78・IB生ワクチン
 日生研MI・IB生ワクチン
 日生研NB生ワクチン
 ガルエヌテクトCBL
 日生研NBBAC不活化ワクチン
 日生研NBBEG不活化オイルワクチン
 日生研コリーザ2価ワクチンN
 日生研ACM不活化ワクチン
 日生研EDS不活化ワクチン
 日生研EDS不活化オイルワクチン
 日生研MG不活化ワクチンN
 日生研MGオイルワクチンWO
 日生研ILT生ワクチン
 日生研IBD生ワクチン
 AE乾燥生ワクチン
 日生研穿刺用鶏痘ワクチン*
 日生研乾燥鶏痘ワクチン*
 日生研鶏コクシ弱毒3価生ワクチン(TAM)
 日生研鶏コクシ弱毒生ワクチン(Neca)



日生研ARBP混合不活化ワクチンME
 日生研AR混合ワクチンBP
 日生研ARBP・豚丹毒混合不活化ワクチン
 日生研豚APM不活化ワクチン
 日生研豚APワクチン125RX
 日生研MPS不活化ワクチン
 日生研日本脳炎生ワクチン
 日生研日本脳炎TC不活化ワクチン
 日生研PED生ワクチン
 日生研TGE・PED混合生ワクチン
 日生研豚TGE生ワクチン
 日生研豚TGE濃縮不活化ワクチン
 日生研グレーサー病2価ワクチン
 日生研豚丹毒生ワクチンC
 日生研豚丹毒不活化ワクチン



日生研日本脳炎TC不活化ワクチン
 馬鼻肺炎不活化ワクチン「日生研」
 日生研日脳・馬ゲタ混合不活化ワクチン
 日生研馬口タウウイルス病不活化ワクチン
 日生研馬JIT3種混合ワクチン08
 日生研馬インフルエンザワクチン08
 破傷風トクソイド「日生研」



日生研狂犬病TCワクチン
 (共立製薬株式会社販売です。)



アカバネ病生ワクチン「日生研」
 日生研牛異常産3種混合不活化ワクチン
 ポビエヌテクト5

*印以外のワクチンは要指示医薬品です。獣医師の処方せん・指示により使用して下さい。



日生研株式会社 <http://www.jp-nisseiken.co.jp>

〒198-0024 東京都青梅市新町 9-2221-1 ☎ 0120-31-5972

“京都微研”のペット用ワクチン・診断薬 動物用医薬品 劇

“京都微研”キャナイン-11*

ジステンパー・伝染性肝炎・伝染性喉頭気管炎・
 パラインフルエンザ・バルボ・コロナ・レプトスピ
 ラ病(コペンハーゲン・カニコラ・ヘブドマデ
 イス・オーストラリス・オータムナリス)混合ワクチン

“京都微研”キャナイン-9*

“京都微研”キャナイン-9Ⅱ*

ジステンパー・伝染性肝炎・伝染性喉頭気管炎・
 パラインフルエンザ・バルボ・コロナ・レプトスピ
 ラ病(コペンハーゲン・カニコラ・ヘブドマデ
 イス)混合ワクチン

“京都微研”キャナイン-8*

ジステンパー・伝染性肝炎・伝染性喉頭気管炎・
 パラインフルエンザ・バルボ・レプトスピラ病(コ
 ペンハーゲン・カニコラ・ヘブドマデイス)
 混合ワクチン

“京都微研”キャナイン-6Ⅱ*

ジステンパー・伝染性肝炎・伝染性喉頭気管炎・
 パラインフルエンザ・バルボ・コロナ混合ワクチン

“京都微研”キャナイン-3*

ジステンパー・伝染性肝炎・伝染性喉頭気管炎
 混合ワクチン

狂犬病ワクチン-TC*

狂犬病組織培養不活化ワクチン



キャナイン-バルボ・キット

犬バルボウイルス感染症診断用
 金コロイド標識抗体反応キット

キャナイン-フィラリア・キット

犬糸状虫症診断用キット



“京都微研”フィライン-CPR*

猫ウイルス性鼻気管炎・
 猫カリシウイルス感染症・
 猫汎白血球減少症混合(油性
 アジュバント加)不活化ワクチン

“京都微研”フィライン-CPR-NA*

猫ウイルス性鼻気管炎・
 猫カリシウイルス感染症3価・
 猫汎白血球減少症混合ワクチン

“京都微研”フィライン-6*

猫ウイルス性鼻気管炎・
 猫カリシウイルス感染症3価・
 猫汎白血球減少症・
 猫白血病(組換え型)混合(油性
 アジュバント加)不活化ワクチン

“京都微研”フィライン-7*

猫ウイルス性鼻気管炎・
 猫カリシウイルス感染症3価・
 猫汎白血球減少症・
 猫白血病(組換え型)・
 猫クラミア感染症混合(油性
 アジュバント加)不活化ワクチン



養基微生物化学研究所

〒611-0041 京都府宇治市横島町24-16番地
 TEL:0774-22-4519(営業) FAX:0774-22-4568(営業)
 URL: <http://www.kyotobiken.co.jp/>

*は要指示医薬品

非接触・無拘束状態に於ける心肺動作
モニタリングシステム「V-Seek」

夜間など診療エリアに居ない時に異常を
メールでお知らせし、タブレット・スマートホン・
PCなどで状況確認が出来ます。

「V-Seek」のお問合せは

株式会社 ウインテック

ライフサイン事業部
岐阜県多治見市音羽町 4-85
TRL : 0572-23-0700
E-mail : v-seek@c-3.jp

30年の伝統と信頼



じ みょう いん
慈 妙 院 動物霊園



〒487-0021 愛知県春日井市東神明町479
☎0568-51-1059



<http://www.jimyouin.or.jp/>

瞳は未来を見つめてる。



動物用医薬品 製造販売



日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1



動物用医薬品 犬猫用麻酔注射剤

要指示

劇 アルファキサン®

- 水溶性の静脈注射用麻酔剤 □ 円滑な麻酔導入と覚醒
- 呼吸器及び循環器への最小限の影響
- 広い安全域 □ 速やかな代謝及び排泄

製造販売元 **meiji Meiji Seika ファルマ株式会社**
東京都中央区京橋 2-4-16

初期費用無料
月額15000円で
ホームページ制作

▶▶▶
フリー
FAX **0120-099-132**

株式会社アールデザイン



株式会社 **アスコ**
<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の豊かな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

支店

- ・東北支店
- ・宮城、福島
- ・東日本支店
- ・児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
- ・東京、大宮
- ・中日本支店
- ・豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
- ・広島、岡山、山口、米子、岡山
- ・大阪、京都

動物病院の設計・開業コンサルティング

動物病院の新築・リフォーム

★ 動物病院の売買・事業承継 ★



開業資金調達から土地建物の仲介まで

一級建築士事務所 株式会社 <http://www.kktac.jp>
TAC設計室 TEL 052-932-1156



- 動物用医薬品
- 各種医療機器
- オリジナル輸入製品
- プレミアム・フード(プリント・リバー・ランチ)
- 国内外メーカーのクリニック推奨品 各種

ペットと人との健康で豊かな未来に貢献いたします

同和化学株式会社

本社

〒462-0005 名古屋市北区池花町300番地
TEL 052-901-3101 FAX 052-901-3104

岐阜支店

〒500-8302 岐阜市本郷町5-9
TEL 058-253-6106 FAX 058-253-6219

医薬品・動物薬品・検査機器
医療のトリプルメリットを追求する

 **中北薬品株式会社**

松軒支店 (052) 935-4636

豊橋支店 (0532) 54-9151

岡崎支店 (0564) 21-7211

編集後記

昨年は、東北楽天ゴールデンイーグルスの田中将大選手が日本プロ野球新記録の開幕から16連続勝利投手を8月に記録、そのままの勢いで負けることなく1シーズンを終え、日本シリーズでも登板し優勝投手となりました。また、今年新しくなったポスティングシステムを経て、7年総額1億5500万ドルという私たちには想像もできないような金額でニューヨークヤンキースと契約し移籍しました。田中選手にはまさに飛躍の一年となりました。

私たち公益社団法人名古屋市獣医師会の活動はこのような派手なものにはなかなかならないと思います。しかし、田中選手も小さい頃から練習を続けてきたからこそこの一年があったのだと思います。名古屋市獣医師会も名古屋市民のため、動物のため、そして会員のために絶え間ない‘あゆみ’を続けていくことが大切であり、それが当会の飛躍につながると思います。今後も皆様のご協力を賜りますようお願い致します。

最後になりましたが、本会誌を作成するに当たり多くの先生に原稿をお書き頂きました。お忙しい中、快くお引き受けて頂きました事、深く感謝致します。ありがとうございました。

会誌委員会 担当理事 保田 恭志

あゆみ vol.49

発行日 2014年3月19日

発行 公益社団法人 名古屋市獣医師会
名古屋市中区大須4丁目12番21号
TEL：052-263-0700
FAX：052-264-9381
<http://www.nagoyavet.jp/>

編集委員 安藤将博 小島健治
児玉順子 夏目里枝子
森島常統 保田恭志

印刷 株式会社ワコーヴィスコム
名古屋市中区木津根町61番地
TEL：052-915-0681
FAX：052-915-0671